

A B r i e f N o t e N o . 1 9 0

発行日：2008.2.21

発行人：Matsuo Masayasu

厳冬の九州九重・高千穂の旅

吹田市 三輪 長司

2008年の1月末から2月始めにかけて、厳冬の九州九重・高千穂へ行った。九重の冬景色の撮影と、最近人気絶頂の黒川温泉を訪れるのが目的だ。九州へは何度も訪れているけれど、真冬に訪れるのは今回が初めてだ。

1. 別府航路フェリー + レンタカーを選択

大阪発の九州旅行には様々な方法がある。写真撮影が目的だからツアー・バスは対象外となり、レンタカーかマイカー旅行になる。九重への行程は別府から阿蘇までをつないでいる「やまなみハイウェイ」を走るのがベストだ。となれば大分空港行きの航空機か、別府航路のフェリーになる。

関西汽船の別府航路フェリーは、大阪 - 別府間を11 時間半で結ぶ夜間航行である。これは航空機よりも日程を有効に使えるのでこれを利用することにする。次にレンタカーかマイカーかの選択だ。九重や湯布院は今年かなり積雪がある。このため冬用タイヤ装備のレンタカーを使うことにした。関西汽船のツアーに、別府航路(往復) + 黒川温泉の得々プランがあったのでこれの2連泊を予約し、レンタカーは別府のレンタカー会社に予約した。

2. 快適な1等個室、設備古い大阪港、マナー悪い韓国人客

往復の夜間フェリーは、2人で1等個室(上下2段ベッド)を使った。幸いにしてオフ・シーズンだったから、上下2段ベッドを二つ並べた4人用の個室を使わせてくれた。これではベッドを2つ並べた特等個室に等しい。1等個室にはベッドのほかに、浴衣、タオル、スリッパ、歯ブラシセット付きの洗面所、テーブル、テレビがあった。個室は着替えが自由だし、なによりも部屋に鍵がかかるから手ぶらで安心して船内を散策できる。

大阪港も別府港もフェリー・ターミナルはひとけが少なくガランとしていた。乗船口はターミナルの2階だけれど、そこから航空機と同様に乗船ブリッジが岸壁まで延びている。別府港では乗船ブリッジはそのまま船舶につながっていたけれど、大阪港では一旦岸壁まで下りて、再び階段ブリッジで昇らなければならなかった。あいにく雨が降っていて、岸壁では雨よけの幌もなく乗客は雨ざらしだ。大阪港の設備はひと昔前のままでサービスが悪い。大阪港は国営だから、ここも民営化が必要だ。

行きのフェリーには、韓国人の団体客がいた。彼らのテーブル・マナーは普通だったが、大浴場でのマナーの悪さには驚いた。小中学生の親子連れだったが、風呂場にスリッパごと入る、風呂場のドアを閉めない、湯をかけ合って大声で騒ぐ、洗面器を使わずシャワー湯を周りに撒き散らす、使ったタオルは洗面所に放置したまま、タオル入れのポリ袋は床に放置したまま。親子とも同じ行為だ。他の韓国人も似たような行動を取っている。韓国は格差社会といわれているけれど、韓国ドラマに出てくる、庶民の呆れるほどのマナーの悪さ(下品さ)を、目の前でじっくりと体験した。

大浴場は韓国人には初めての経験かもしれない。しかしそれにしても無作法の度が過ぎている。

3. 凍結したやまなみハイウェイ、新しい大吊り橋、美しい樹氷

早朝の別府はどんよりと曇っていた。由布岳は雲に隠れて見えなかった。黒川温泉へのルートはやまなみハイウェイと高速道路の二つのルートがある。天候は今一だったけれど、帰りの天候が更に悪くなることも考えられるので、はやまなみハイウェイをレンタカーで走ることにした。

やまなみの黒川温泉までの交通量はほとんど無く、時々対向車とすれ違う程度である。途中湯布岳などいくつか峠があったが、峠越えの道路はすべて凍結していた。合計2時間ほど凍結道路を走った。周囲は霧で何も見えず、これほど長時間、凍結道路を走ったのは初めてである。途中道路わきに突っ込んでいる車があった。冬用タイヤ装備のレンタカーにしてよかったと痛感した。

やまなみハイウェイの中ほどから少し入ったところに九酔渓がある。この渓谷をひとまたぎする形で、昨年秋に歩行者専用の巨大な「九重“夢”大吊橋」(長さ 390m、高さ 173m で日本一)が開通した。ここには落差 80m の震動の滝が2本あり、つり橋の中ほどから滝を正面に眺めることができる。

渡橋料を払って渡り始めたけれど、余りの風の冷たさに途中から引き返した。確かにパンフレット通り「天空の散歩道」だ。多数の観光客が渡っていた。九重観光新名所の誕生だ。

やまなみハイウェイ最後の峠である「牧の戸峠」は樹氷で有名である。この峠に着いた頃、運良く雲が途切れ、樹氷が陽光に輝いた。今回の撮影行程のハイライトである。思う存分撮影が出来た。



(牧の戸峠 樹氷)

4. 情緒あふれる素晴らしい黒川温泉

黒川温泉は九重の山すその渓谷沿いにある小さな温泉街だ。黒川温泉のすぐ上には、九重の雄大な山麓が迫っている。黒川温泉はこの10年ほどの間に急速に人気が出てきた温泉だ。

黒川温泉の特徴は、渓流の黒川に沿った広い露天風呂と、温泉宿の敷地内外に植え込まれた樹木にある。夫々の旅館には離れ座敷も充実している。夫々の旅館が少しずつ離れているため、宿の部屋からは樹木以外に何も見えず閑静な雰囲気保たれている。京都嵯峨野の樹木の中にひっそりと佇む料亭旅館に似たところがある。温泉は湯量が豊富で源泉かけ流しであり、しかも一

つの宿で種類の違った2種類の湯(井戸)を持っているところも多い。泊まった旅館(黒川荘)も、料亭風作り、広い露天風呂、品数多い懐石料理、きめ細かいサービス、と充実している。



(黒川荘玄関) from HP



(大露天風呂) from HP

この黒川温泉の人気は、温泉組合によって行われた、街全体の計画的なりニューアルにある。旅館の主人の話によれば、黒川温泉ではこの20年間、樹木を植え続けてきたという。もちろん個々の旅館の建物も、樹木の雰囲気に合わせて料亭風に建て替えられている。その樹木が現在程よく生長し、えもいわれぬ上質の雰囲気をかもし出している。温泉街の計画的な総合開発の成果だ。この黒川温泉の再開発の成功は、他の温泉街再開発の手本になることは間違いがない。

黒川温泉では半年間有効の温泉手形を発行している。3箇所の旅館の温泉が利用できるもので1200円だそうだ。泊まった旅館の温泉には、昼下がりに多くの外来客がきていた。

5. 宿の女中に高千穂の神社参拝を勧められる、雄大な草原ドライブ

夕食時、宿の部屋女中との会話で、翌日は阿蘇を一周するつもりだと話したら、少し足を伸ばし

て高千穂の霊験あらたかな神社へ行かれたらと勧められた。それは「荒立宮」という小さな神社で、彼女は毎月そこへお参りしているという。何でも乳ガンだった彼女の友人が、そこへお参りしたらガンの治療をしていないのに直ってしまったとか。自分の足が悪いのを見た上での勧めと推察した。

翌日はたまたま2月1日だから、神主さんが月一回おられる日だとか。

彼女の勧めに従ってその神社を訪れることにし、道案内を書いてもらった。翌日は晴天で雄大な阿蘇や九重が積雪で白く輝いていた。九重と阿蘇の間の広大な草原は、視界を遮るものが一切なく、信州のピーナス・ラインを更に雄大にした眺めである。草原は枯れていて黄一色だから極めて明るい景色で、まるで映画で見るアメリカ西部のシェラ・ネバダ地域をドライブしているようだ。

6. 知る人ぞ知る日本のルーツ荒立宮

神々のふるさとである高千穂は、阿蘇から南へ1時間ほど走った宮崎県の山中にあった。

高千穂の「荒立宮」は小さな神社だった。土着の国津神・猿田彦(サルタヒコ)命と天孫族・天鈿女(アマノウズメ)命を主神とし、この神社の主神である興梠(こおろぎ)氏の先祖も祀られている。

神社名の由来は、天孫降臨の道案内を務めた猿田彦命と天鈿女命が結婚される時に、周りの荒木で宮居を建立されたためと伝えられている。また猿田彦命は土着の縄文人、天鈿女命は帰化人である弥生人とされており、縄文人と弥生人との結婚は、日本という国の成り立ちを象徴している。

天照大神が天の岩戸にお隠れになられたとき、天鈿女命が日影カズラをたすきに笹の葉を手にして、乳房も陰もあらわに乱舞され、天の岩戸開きをされた。これらの神話から、猿田彦命は、交通安全、五穀豊穰、厄除け、夫婦和合、安産、長寿祈願の神として、天鈿女命は、芸の上達、厄除け子宝、長寿の神として崇められている。境内に巨人の長嶋元監督の名前があった。



(高千穂・荒立宮)

7. 荒立宮の滋味あふれる神主にご祈祷を受ける

この荒立宮で神主の興梠氏に、運良くお目にかかることが出来た。そこで大阪から来たのだけれど、黒川温泉の女中さんに勧められたと話をすると、神主は深くうなずき、早速神社本殿へ案内され、ご神体が祀られている扉を開け広げ、ご神体と対面してご祈祷を上げてくれた。

神社のご神体は、通常は扉が閉められていて見ることはできない。一般的には、鏡が置かれて

いるだけだといわれている。しかしこの神社のご神体は、高さ1mほどの一対の神像であった。

すなわち猿田彦命と天鈿女命の彩色神像である。(神主の話によると鎌倉時代の作だとか)

この神主の興相氏は、初老の極めて柔らかなまなざしの人で、声も美しく心が洗われる気がした。興相氏は「すべて出会いだ」といわれた。そういえば、黒川温泉の信心深い女中に巡り合わせたのも出会いだし、偶然にも行程の予定が空いて高千穂の荒立神社へ出向き、毎月1日しか神社にこない神主に巡り合えたのも偶然とはいえ出会いだ。目に見えない何かに導かれたような気がする。

8. 雪化粧の黒川温泉



《黒川荘かやぶき門の積雪》

明けて3日目は一転して朝から雪景色だった。旅館の温泉露天風呂では、岩や樹木に雪が積もっていて、正に一幅の絵を見るようで美しい。旅館入口のかやぶきの古風な門にも雪が積もっていて情緒が溢れていた。天からのプレゼントだ。

帰りの道は国道と高速道路を使ったが全線で吹雪いていた。フェリーの出航時刻まで時間があり、ツアーの別府案内に無料入湯券が付いていたため、別府で一番豪華なホテル「ホテル白菊」の温泉に入ることにした。このホテルの露天風呂はプールのように広大だった。泉質は透明で完全かけ流しで、熱すぎるため地下水を少し混ぜていた。入浴後は豪華なホテルのロビーでくつろいだ。別府ならではの豪華ホテルの利用法と洒落てみた。

今度の旅行は、雪景色、情緒ある温泉宿、滋味溢れる神主との出会いに恵まれた。

(2008/2/8 記)

(注：HPからの黒川荘の写真2枚は、2008年2月17日にフロント麻生氏に利用許可を受けています。三輪)